

初學日本文典

物集高見著

上

ホ 2

140

1



文部省檢定尋常師範學校教科用書

物集高見著 全二冊

初學日本文典

出雲寺版

明治
號 140
卷 1

同會

日本文典序
文之有法出於天非人之所能
為也萬國皆有文法我邦奚獨
不然顧我邦在昔無有道文法
者非無法也特無法之名耳其
道文法者創於本居翁繼以中

明治三年十二月十九日購求

初學文典 序
島菽原之徒而至物集氏父子
實集而大成之物集氏曰高世
鎮西之歌宗也家精於語學文
法長子高見來居東京弘修乃
父之業遇有疑義必質諸家庭
郵筒往復千里不絕故其所撰

淵涵而廣博精竅而簡明迺若
此編雖為初學而作然其闡幽
顯微條分縷折無復餘蘊較諸
世之或徒剽竊歐米文典拙撰
妄作以紊亂我天然固有之法
者豈可同日而語哉夫日月出

初學日本文典前編
而燭火熄此編也一行於世坊
間所有文典文法諸書覆醬甑
者必不少矣

明治十有一年五月

南豐學人元田直識

西塾松井甲書



初學日本文典前編

○標目

上卷

文字論

音標字

母音

子音

鼻音

濁音

半濁音

初學日本文典

卷

目錄 一

五十連音

五十連音圖

拗音

反切

伸音

通音

音便

言語論

總括

體言

體言の種類

體言の數

體言の格

用言

作用言

活辭の種類

命令法

希求法

疑問法

崇敬法

活辭六時

活辭八轉變

活辭轉變表

四段活辭

四段再轉

下二段活辭

下二段再轉

變格活辭

形狀言

形狀言八轉變

下卷

接辭

接辭ノ種類

體言ヲ兼ル接辭

作用言ヲ兼ル接辭

形狀言轉變表

形狀言ノ變化

くまぐノ變化

單辭ノげ

形狀變格

形状言ヲ兼ル接辞

嘆辞

希求辞

命令辞

禁止辞

指示辞

現在辞

過去辞

將來辞

否不辞

疑辞

反辞

兩辞

分量辞

想像辞

決定辞

比准辞

助辞

句頭接辞

一種接辞

崇敬辞

立尔乎波ノ調

立尔乎波ノ表

立尔乎波ノ調
立尔乎波ノ表
立尔乎波ノ調
立尔乎波ノ表
立尔乎波ノ調
立尔乎波ノ表
立尔乎波ノ調
立尔乎波ノ表

同會

初學日本文典卷之上
攻印

初學日本文典卷之上

文字論

音標字

豊後

物集高見 著
根本真苗 校

日本ノ純粹正雅ナル言辞ヲ記スニ用フル正キ音標ノ文字ハ其數五十二ニシテ平假字扁旁假字ノ二體アリ而ノ一字必ズ一音アリテ西洋諸國ノ如ク數字ヲ配合シテ一音ニ呼ブ類ニ非ズ乃チ平假字ハあいうえお。かきくけこ。さ。ま。せ。そ。たちつてと。な。に。ぬ。ね。の。は。ひ。ふ。へ。ほ。ま。み。む。め。も。や。い。ゆ。よ。ら。り。る。れ。ろ。わ。を。を。を。を。扁旁假字ハアイウエ

ムルト云フ其聲隱微ニシテ未ダ全ク明ナラザル者トス
 今假ニ此隱微ナル聲音ノ記標ニ扁旁假字ノクスツヌフ
 ハルヲ用ヒテ母音トノ結合ヲ説カバ先ヅクト母音ト重
 リテ「かきくけこ」ノ五音成リスト母音ト重リテ「さ
 志志せそ」ノ五音成リツト母音ト重リテ「たちつてと
 」ノ五音成リヌト母音ト重リテ「なにぬねの」ノ五音
 成リヲト母音ト重リテ「はひふへほ」ノ五音成リムト
 母音ト重リテ「まみむめも」ノ五音成リルト母音ト重
 リテ「らりるれろ」ノ五音成ルガ如シ而ノ其結合スル
 形ハ

クトあト重リテかヲ生ジクトハト重リテきヲ生ジク
 トウト重リテくヲ生ジクトエト重リテけヲ生ジクトお
 ト重リテこヲ生ジテ「かきくけこ」成ル是ヲ加行ノ
 五音トス此聲ハ牙ヲ用テ呼ブ故ニ牙音ト稱ス
 ストあト重リテさヲ生ジストイト重リテ志ヲ生ジス
 トウト重リテむヲ生ジストエト重リテせヲ生ジスト
 おト重リテそヲ生ジテ「さ志志せそ」成ル是ヲ佐行
 ノ五音トス此聲ハ齶ヲ用テ呼ブ故ニ齶音ト稱ス
 ツトあト重リテたヲ生ジツトヘト重リテちヲ生ジツ
 トウト重リテつヲ生ジツトエト重リテてヲ生ジツト

お。ト重リテと。ヲ生ジテ「た。ら。つ。て。と」成ル是ヲ多行
ノ五音トス此聲ハ舌ヲ用テ呼ブ故ニ舌音ト稱ス
又トあ。ト重リテな。ヲ生ジヌトへ。ト重リテに。ヲ生ジヌ
トう。ト重リテぬ。ヲ生ジヌトえ。ト重リテぬ。ヲ生ジヌト
お。ト重リテの。ヲ生ジテ「な。に。ぬ。ね。の」成ル是ヲ奈行
ノ五音トス此聲ハ舌ヲ用テ呼ブ故ニ舌音ト稱ス
フ。トあ。ト重リテは。ヲ生ジフトい。ト重リテひ。ヲ生ジフ
トう。ト重リテふ。ヲ生ジフトえ。ト重リテへ。ヲ生ジフト
お。ト重リテほ。ヲ生ジテ「は。ひ。ふ。へ。ほ」成ル是ヲ波行
ノ五音トス此聲ハ脣ヲ用テ呼ブ故ニ脣音ト稱ス

ハ。トあ。ト重リテま。ヲ生ジムトハ。ト重リテみ。ヲ生ジム
トう。ト重リテむ。ヲ生ジムトえ。ト重リテぬ。ヲ生ジムト
お。ト重リテも。ヲ生ジテ「ま。み。む。め。も」成ル是ヲ麻行
ノ五音トス此聲ハ脣ヲ用テ呼ブ故ニ脣音ト稱ス
ル。トあ。ト重リテら。ヲ生ジルトハ。ト重リテリ。ヲ生ジル
トう。ト重リテる。ヲ生ジルトえ。ト重リテれ。ヲ生ジルトお。
ト重リテろ。ヲ生ジテ「ら。り。る。れ。ろ」成ル是ヲ良行ノ
五音トス此聲ハ舌ヲ用テ呼ブ故ニ舌音ト稱ス
母音ノ相重リテ生スル所ノ子音ハ「や。い。ゆ。江。よ」「わ。を
う。ゑ。を」ノ十音トス「や。い。ゆ。江。よ」ハ母音ノイノ五個

ノ母音ト重ルニ成リ「わろろと」ハ母音ノウノ五個
 母音ト重ナルニ成ル其重ナル形ハ
 イトあト重リテヤヲ生ジイトハト重リテハヲ生ジイ
 トウト重リテウヲ生ジイトエト重リテ江ヲ生ジイト
 おト重リテヨヲ生ジテ「やいゆ江よ」成ル是ヲ也行
 ノ五音トス此聲ハ母音ト同ク喉ヨリ發ス故ニ喉音ト
 ス
 ウトあト重リテわヲ生ジウトハト重リテおヲ生ジウ
 トウト重リテウヲ生ジウトエト重リテろヲ生ジウト
 おト重リテをヲ生ジテ「わろろと」成ル是ヲ和行

ノ五音トス此聲ハ母音ト同ク喉ヨリ發ス故ニ喉音ト
 稱ス

或説ニ喉音也母音及行和行ノ外ノ七行ハ二音重ナラズシ
 テ皆單行ナル者ナリ故ニ七行ノ子音各其七行ノ子
 音ト重ナル片ハ二音ニ分ル、明ナル拗音ニシテ一
 音ニ約マルナシト云ヘレド七行ハ固ヨリ子音ト
 子音ノ重ナル者ニ非ズシテ子音ノ母音ト重ナル者
 ナリ若シ然ラズトセバ七行三十五個ノ音ヲ長聲ニ
 呼ブ片韻ニ盡ク母音ヲ生ズル者ハ抑何等ノ原因ア
 リテ然ルカ是レ七行モ亦單行ナラザル明證ナル可

鼻音

五十音ノ外ニ撥ル聲アリ是ヲ鼻音ト云フ此音標ニハ平假字ニハんヲ用ヒ片假字ニハンヲ用フ抑五十音ハ口ノ正音ナルニ因リ口ヲ閉レバ一音モ發スルヲ能ザルヲ獨リ鼻音ハ全ク口ノ正音ニ非ザルヲ以テ口ヲ閉テ呼ブモ猶其聲ヲ發シ得ベシ此聲ハ本ト麻行第三音ノむノ變音ナルヲ以テ今んト云フ可キヲ上古ハ必ズむト呼ブ汝古或ハにいの等ニモ呼ベル者アリ蘭近衛ら面目のる或説ニハんハ平假字ノ變體ナリト云ヘリ然レ已ニ一個

音ト成タレバ復々むヲ推テんト同一ニハ説ク可ラザル者アリ譬ヘバむハ長聲ニ呼ビ短聲ニ呼ブモ自在ナレハんニ至テハ長聲ニハ呼ブ可ク短聲ニハ呼ブ可ラズむハ句頭ニ置ク可クんハ句頭ニ置ク可ラズんハ音便ニ呼ブ可クむハ音便ニ呼ブ可ラザルガ如シ御便ニ呼ブんハ夜おとどち我らめるレノあいへん築地ガよひつおとどち在メルいフハあいむるレノあいへん等ヲ地ガよひつおとどち在メルいハ何ナルカモ辨フ可ラズ漢籍讀ミトん音便ニ至テハ辭義更シキ者アリ甚故ニんハむノ變音ニテむノ次ニ位スル一個ノ音トス

濁音

子音ノ中加行佐行多行波行ノ四行ニ濁音アリ此聲ヲ記
ス可キ文字無キヲ以テ各其行ノ清音ノ記標字ニ点ヲ
加ヘテ其識トス

加行 かぎくげこ

佐行 さぞせぞ

多行 たぢづでど

波行 ばびぶべぼ

此聲ハ本ト四行ノ變音ニシテ日本ノ正音ニ非ズ是ヲ以
テ古來一音ノ言辞ニ於テハ濁リテ呼ブ者アルヲナシ
三音連合シタル言辞今論スル者ト異レル者故ニ各其行ノ

清音中ニ攝シテ別ニ其行ヲ立テズ
半濁音

子音ノ中波行ニ清濁ノ間ノ音アリ是ヲ半濁音ト名ク此
聲ヲ記ス可キ文字モ亦無キヲ以テ其行ノ清音ノ記標字
ニ圈点ヲ加ヘテ其識トス

波行 はひふへほ

半濁音ハ濁音ヲ呼ブ如クニ脣ヲ彈テ清音ニ呼ブ即チハ
ハ烟波ノ波ノ如クハハ尊鼻ノ鼻ノ如シ
此半濁音モ亦是レ日本ノ正音ニ非ザルヲ以テ古書ハ更
ナリ近世ニ於テモ多クハ口語上ニ在ルヲ以テ別ニ其行

ヲ立ズシテ其行ノ清音中ニ攝ス

五十連音

母音子音ヲ連タル圖ヲ五十連音圖ト云フ此圖ハ豎ノ五
 字ヲ音トシ横ノ十字ヲ韻トス豎ノ五字ハ阿行^アハ行^ハ加^カ
 行^カキ^キク^ク佐行^サセ^セシ^シ多行^タチ^チッ^ッ奈行^ナニ^ニハ^ハ波行^ハヒ^ヒフ^フ
 麻行^マミ^ミム^ム也^也行^ヤイ^イヨ^ヨ良行^ラリ^リル^ル和行^ワヰ^ヰヱ^ヱヲ^ヲニ^ニシ^シテ^テ横
 ノ十字ハ第一韻ハ「あかさたなはまやらわ」第二韻ハ
 「いきまぢにひみりゐ」第三韻ハ「うくまつぬむ
 ゆるず」第四韻ハ「えけせてぬへぬ江れゑ」第五韻ハ
 「おこそとのほもよろを」トス而シテ此五十ノ音韻ハ縦

横ニ通ジ萬變ニ應ズルモ各其格ニ從テ混亂錯雜スル
 ナシ往^ナクノ^シゆ^クか^ノゆ^クき^ノゆ^クく^ノゆ^クけ^ノト^シ變^ル動^スシ^テ還^ルヘ^ルノ^カへ^ラ
 か^ヘり^カへ^ルか^ヘれ^ト變^ス動^スル^ノ類^ノ如^キモ^各其^同音^中
 ノ變化ニ止テ他音ニ及ブ^ル無^シシ^テ往^ク還^ルヘ^ルノ^カへ^ラ
 今^ハ論^ズル^者ト^活用^スル^ハ「あれ」ヲ「われ」^トシ^テ「う^ツり^シ」
 フ「ゆ^ツり^シ」^トシ^テ「み^ダれ^シ」^トシ^テ「み^タえ^シ」^トシ^テ「ま^ノば^る」^トシ^テ「ま^ノば^ゆ」^ト呼^ブモ^亦同^韻中^ノ轉^ジニ^因ル

五十連音圖

阿	行	音	喉
あ	い	え	お
う	う	う	う
え	え	え	え
お	お	お	お
か	き	く	け
か	き	く	け
か	き	く	け
か	き	く	け
か	き	く	け

韻ノいきまぢにひみりるヲ並べ左方ニ第三韻ノうく
 屯つぬふむゆる字ヲ並べ右ノ下ニやゆ江よヲ置キ左
 ノ下ニわぬ字をヲ置ク是ヲ拗音トス其右ハ開ノ拗音
 輕キニシテ左ハ合ノ拗音重キナリ拗音ハ正音ノ少ク拗
 ミタル者ヲ云フ抑上古ハ拗音ニ呼ブ可キ者ナカリシヲ
 我國ニ於テハ母音ノト稱ス可キ者ハ實ト重ナリ和行ノ直音是
 ナリ也行ハ母音ノ五位ハ實ト重ナリ和行ノ直音是
 ノガ成セル者ハ五位ト重ナレ共ニ是レ拗音ニシテ各一
 行ノ成セル者ハ五位ト重ナレ共ニ是レ拗音ニシテ各一
 音ニ類セザル所アラハト以テナリ故ニ又也
 ハ複音ニシテ母音ハ知單音レバ音ニ輕重ノ差異アリテ
 全ク同ジカテ母音ハ知單音レバ音ニ輕重ノ差異アリテ
 然リト然リト他雖モ七他ノモ亦是ハ其原音ト云ダザルト隱微

五十連音ノ正音ニシテ是ヲ直音トス其下ノ右方ニ第二

和	良	也	麻	波	奈	多	佐
行	行	行	行	行	行	行	行
音喉	音舌	音喉	音唇	音唇	音舌	音舌	音齶
あ	ら	や	ま	は	な	た	さ
あ	ら	や	ま	は	な	た	さ
お	り	ゆ	み	ひ	に	ち	ま
お	り	ゆ	み	ひ	に	ち	ま
す	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	ま
す	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	ま
ゑ	れ	江	め	へ	ぬ	て	せ
ゑ	れ	江	め	へ	ぬ	て	せ
と	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ
と	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ

ナル聲ニテ母音ヲ除ケバ獨立スルヲ得可ラザル者ナレ
 ハ純粹單一ニシテ衆音ヲ總括ス可キ母音ノ相重ナレ
 也行和行ノ二行トハ同ジ中世已來支那ノ字音ヲ呼ブニ
 ク論ズ可ラザル者トス
 至テ此聲ヲ用ヒ又此聲ヲ記スニハ其連ネタル音標字ヲ
 憑據トシテ字音ノ假字ヲ正ス水ヲモみ火ヲくわト記シ
ガル如キ字音ノ假字然レモ尚ホ約ノテ直音ト為ス可キ
 ノ法モ亦此ニ基ク
 者ハ是ヲ直音ニ呼ブアリ酒須ハ拗音ノ去ゆナルヲ直
 音ノモニ呼ビ初所ハ拗音ノ去よナルヲ直音ノモニ呼ブ
 而ノ反テ直音ヲ曲テ拗音ニ呼ビ做スハ古今其例アル
 ナシ

反切

二音ヲ約メテ一音ニ呼ブヲ反切ト云フ反切ハ連聲ノ使
 ニ因テ二音ノ自然ニ一音ニ歸スル者ナリ然レモ音韻相
 通ノ正則ニ升フナシ
 反切スル所ノ二音ハ上ヲ父位トシ下ヲ母位トス父母同
 音中ニ在ル者ハ母位ニ歸シ父母同韻中ニ在ル者ハ父位
 ニ歸ス是ヲ豎ハ末ニ留リ横ハ本ニ歸スト云フ

父位母位同音中ニ在ル者

か	き
<small>母位</small> く	<small>父位</small> け
<small>歸音</small> こ	

けくヲ約メテくト呼ブ者ハ
 惜ヲヲシクと去くと云フ類ナリ

父位母位同韻中ニ在ル者

第二韻	第十韻	同韻相通ノ例	和行	良行	也行	麻行	波行	奈行	多行
あめつち。	おなま	あめつち。	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき
あめつち。	あめつち。	あめつち。	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき
あめつち。	あめつち。	あめつち。	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき
あめつち。	あめつち。	あめつち。	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき	あさき

第三韻
あさきらる。 所忌

第四韻
みだれ 亂

第五韻
こきばく 幾許

此外ニ濁音ト清音ト通ズル者アルモ亦音韻ノ相通ニ紆
曲アルヲナシ乃チ波行ハ濁音ハ麻行ニ通ジテ「まばら
く」ヲ「ままらく」^{蓄薇}「うばら」ヲ「うまら」ト呼ビ又支
那ノ字音ヲ呼ブニモ「だんま」ヲ「なんま」又内外ノ
内ヲ一ハ「だいり」^{内裡}ト「だい」ニ呼ビ一ハ「ない」^{内侍}ト
イニ呼ベバ多行ノ濁音ハ奈行ニ通ジテ共ニ其格ヲ誤ル
トナシ

音便

音便ニ五種アリ。イト呼ビ。ウト呼ビ。ント呼ビ。又急促ル聲ニ呼ビ。波行ノ半濁音ニ呼ブ。本此聲ハ支那ノ字音ヲ呼ビ。馴シヨリ移レル者ニテ日本ノ正音ニ非ズ。是ヲ以テ上古ニ在テハ五十音ノ正音ノ外ニ音便ノ如キ者ナカリシヲ中古以降漢語ヨリ慣用シ來テ雅言ト稱スル者ノ中ニモ亦多ク此聲ヲ呼ブ。故ニ五十音相通ノ正格ニハ異ナル所アリト雖モ然レモ亦自ラ慣例ノ如キ者アリテ音韻ヲ紆曲スルヲナシ。今此五種ヲ各條ニ分テ其例ヲ示ス。

○イト云フ音便

志ヲ長ク引テ韻ヲイニ呼ブ者

詩歌ヲ志いか 四時ヲ志いお

他音ヲいニ變ジテ呼ブ者

きヲいニ呼ブ 后ヲきさい 幸ヲさいはひ

志ヲいニ呼ブ 朝ヲあいた 饗ヲもてな

○ウト云フ音便

他音ニウヲ添テ呼ブ者

夫婦ヲふうふ 八日ヲやうか

他音ヲウニ變ジテ呼ブ者

くヲウニ呼ブ 冊子ヲさうま 藁馬ヲわらうづ

は	フ	ウ	ニ	呼	ブ	第	フ	は	う	き	吹	革	フ	ふ	い	が	う				
ひ	フ	ウ	ニ	呼	ブ	真	人	フ	ま	う	と	首	フ	お	う	と					
ふ	フ	ウ	ニ	呼	ブ	法	師	フ	ほ	う	と										
へ	フ	ウ	ニ	呼	ブ	卿	フ	ま	う	ち	ぎ	み	仕	奉	フ	つ	か	う	ま	つ	る
ほ	フ	ウ	ニ	呼	ブ	直	衣	フ	ま	う	と	ま	直	會	フ	ま	う	ら	ひ		
ま	フ	ウ	ニ	呼	ブ	給	リ	フ	た	う	ば	り									
み	フ	ウ	ニ	呼	ブ	上	野	フ	か	う	づ	け	小	路	フ	こ	う	ぢ			
む	フ	ウ	ニ	呼	ブ	日	向	フ	ひ	う	が	候	フ	さ	う	ら	ふ				
り	フ	ウ	ニ	呼	ブ	取	出	フ	と	う	で										
う	ノ	音	便	ハ	二	語	ノ	間	ニ	介	リ	テ	一	語	ノ	如	ク	聞	ユ	ル	

者	ア	リ	弟	ヲ	「	お	と	う	と	」	妹	ヲ	「	い	も	う	と	」	ノ	類
ナ	リ	又	作	用	言	活	辞	ノ	ヒ	ヲ	モ	ウ	ニ	呼	ブ	「	賜	い	ケ	
リ	「	た	ま	う	け	り	」	思	而	「	お	も	う	て	ノ	類				
○	ん	ト	云	フ	音	便														
他	音	ニ	ん	ヲ	添	テ	呼	ブ	者											
真	字	ヲ	ま	ん	な	假	廢	ヲ	さ	ん	ま	き	不	者	ヲ	む	ん	ば		
他	音	ヲ	ん	ニ	變	ジ	テ	呼	ブ	者										
に	ヲ	ん	ニ	呼	ブ	丹	波	ヲ	た	ん	は	如	何	ヲ	い	か	ん			
ぬ	ヲ	ん	ニ	呼	ブ	結	垣	ヲ	き	ん	かい	砧	ヲ	き	ん	た				
は	ヲ	ん	ニ	呼	ブ	童	部	ヲ	わ	ら	ん	べ								

文字	人	る	り	も	む	み	ほ	ひ
ヲ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
モ	キ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ
モ	テ	呼	呼	呼	呼	呼	呼	呼
モ	呼	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ
モ	ガ							
モ	ル							
モ	者							
本	有	夜	假	懇	汝	筭	殆	築
意	ベ	御	字	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	土
ヲ	シ	殿	ヲ	ね	な	か	ほ	ヲ
ほ	ヲ	ヲ	か	ん	ん	ん	と	つ
い	あ	よ	ん	ご	ち	ざ	ん	い
	ん	ん	な	ろ		ま	ど	ん
	べ	の						ち
	ま	お						
	ま	と						
	ま	ど						
案	件							
内	ヲ							
ヲ	く							
あ	だ							
な	ん							
い								

念佛ヲねぶつ
他音ヲう。或ハ人ニ呼ブ音便
姫ヲおうな
女ヲをうな
巫ヲかうなぎ
商人ヲあきんど
頭殿ヲかうのとの
仕奉ヲつかうまつる

○急促ル聲ニ呼ブ音便

全ヲまうたたく
訟ヲうたへ
最ヲまうたたく

精進ヲさう志
冠者ヲくわぎ

何^{アハレ}怜^レヲ^ハあ^ッぱ^レ

服^ハ部^リヲ^ハい^ッと^リ

○

音便ノ^ウヲ^ハ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ

夫^ヲを^いッ^と

追^ウ而^テヲ^ハあ^ッと^テ

真^{マコト}人^トヲ^ハい^ッと^ト

從^シ而^テヲ^ハま^たが^ッと^テ

ふ^ヲ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ

貴^{タカシ}ヲ^ハた^とと^ま

新^{ニホ}田^タヲ^ハい^ッと^タ

ち^ヲ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ

以^{モト}而^テヲ^ハも^ッと^テ

立^{タチ}而^テヲ^ハた^ッと^テ

つ^ヲ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ

奴^ヌヲ^ハや^ッと^コ

り^ヲ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ

欲^{ホク}ヲ^ハほ^ッと^モ

則^{ソレ}ヲ^ハい^ッと^とる

○波行ノ半濁音ニ呼ブ音便

促^{ツク}呼^コノ下ニ在ル者も^ッぱ^ら

あ^ッぱ^レ

字音ヲ呼ブ者

に^いッ^ほん

は^んぱ

此半濁音ニ呼ブ音便ハ支那ノ字音ニ多クシテ日

本ノ言辞ニ於テハ急^ツ促^メル音ノ下ト撥^ハル音ノ下ト

ノミニ局レリ

言語論

総括

文章ヲ綴属スル言辞ハ分殊ノ性質アル者ニシテ各異ノ名ヲ冒セル者ナリ故ニ西洋諸國ニ於テハ或ハ八品種ニ分チ或ハ十品種ニ分ツ然レモ其國土ノ風ニ因リ其言語

ノ體ニ因リ亦自ラ少差ナキヲ能ハズ日本ノ言語ノ如キ
 モ上古ノ正シキ用法ニ基キ之ヲ論ズルハ乃チ左ノ如
 シ
 凡百ノ事物ニ於テ其形體ノ有無ヲ撰バズ之ヲ呼ブ言語
 ニ轉變ノ活用無キ者ハ總稱シテ體言ト名ク體言中鳥獸
 草木ノ類其物體アル者ハ之ニ實體言ノ名ヲ命ジ功績節
 操ノ類其作業ノ一個ノ形ニ觀ルベキ者ハ之ニ虛體言ノ
 名ヲ命ジ遊戯嬉樂ノ類作用形狀ノ轉變ヨリ生ズル者ハ
 之ニ假體言ノ名ヲ命ジ我汝彼ノ類物名ニ代換マル短辭
 ハ之ニ代名言ノ名ヲ命ズ

體言ヲ以テ名ケタル事物即チ鳥獸草木等ノ動作形容ヲ
 呼ブ言辭ニ活用アル者ハ總稱シテ用言ト名ク用言中事
 物ノ動作ヲ呼ブ者ニハ之ニ作用言ノ名ヲ命ジ事物ノ形
 容ヲ呼ブ者ニハ之ヲ形狀言ノ名ヲ命ズ
 體言或ハ用言ニ接續シテ其意義ヲ達行セシムル媒介ニ
 用フル短辭ヲ接辭ト名ク接辭中ニモ亦嘆辭希求辭命令
 辭禁止辭指示辭現在辭過去辭將來辭否不辭疑辭反辭兩
 辭分量辭想像辭決定辭比准辭助辭句頭接辭一種接辭崇
 敬辭ノ名ヲ命ズ可キ者アリ
 體言ヲ以テ名ケタル人獸事物ノ百般ノ動作ヲ呼ブニハ

作用言ヲ用ヒ其性質形容ヲ呼ブニハ形状言ヲ用フ又感
慨ヲ呼ブニハ嘆辭ヲ用ヒ命令ト願望トヲ示スニハ命令
希求ノ二辭ヲ用ヒ時刻ヲ見スニハ過去辭ト將來辭トヲ
用ヒ疑訝ヲ呼ビ分量ヲ示スニハ疑辭ト分量辭トヲ用ヒ
想像ヲ談リ崇敬ヲ示スニハ想像崇敬ノ二辭ヲ用フ
此論說ヲ以テスレバ日本ノ文章ニ用フル言辭ハ之ヲ次
條ノ三品種ニ總括シ得ベシ

體言
第一 體言
第二 體言
第三 體言
第四 體言
第五 體言
第六 體言
第七 體言
第八 體言
第九 體言
第十 體言
第十一 體言
第十二 體言
第十三 體言
第十四 體言
第十五 體言
第十六 體言
第十七 體言
第十八 體言
第十九 體言
第二十 體言
第二十一 體言
第二十二 體言
第二十三 體言
第二十四 體言
第二十五 體言
第二十六 體言
第二十七 體言
第二十八 體言
第二十九 體言
第三十 體言
第三十一 體言
第三十二 體言
第三十三 體言
第三十四 體言
第三十五 體言
第三十六 體言
第三十七 體言
第三十八 體言
第三十九 體言
第四十 體言
第四十一 體言
第四十二 體言
第四十三 體言
第四十四 體言
第四十五 體言
第四十六 體言
第四十七 體言
第四十八 體言
第四十九 體言
第五十 體言
第五十一 體言
第五十二 體言
第五十三 體言
第五十四 體言
第五十五 體言
第五十六 體言
第五十七 體言
第五十八 體言
第五十九 體言
第六十 體言
第六十一 體言
第六十二 體言
第六十三 體言
第六十四 體言
第六十五 體言
第六十六 體言
第六十七 體言
第六十八 體言
第六十九 體言
第七十 體言
第七十一 體言
第七十二 體言
第七十三 體言
第七十四 體言
第七十五 體言
第七十六 體言
第七十七 體言
第七十八 體言
第七十九 體言
第八十 體言
第八十一 體言
第八十二 體言
第八十三 體言
第八十四 體言
第八十五 體言
第八十六 體言
第八十七 體言
第八十八 體言
第八十九 體言
第九十 體言
第九十一 體言
第九十二 體言
第九十三 體言
第九十四 體言
第九十五 體言
第九十六 體言
第九十七 體言
第九十八 體言
第九十九 體言
第一百 體言

右ニ擧タル體言用言接辭ハ次序ヲ追テ各別ニ之ヲ論辨
ス可シ

體言

體言ハ形體ノ有無ヲ撰バズ其呼ブ言辭ニ轉變ノ活用無
キ者ハ總ベテ此中ノ辭トス而シテ其形體ノ有無及ビ成立
ノ原因ニ基テ實體「ひと」虚體「こころ」假體「おぼ
り」代名「われ」ノ四種ニ分ツ
體言ハ活用無キ辭類ヲ總稱スルヲ以テ一句ト成レル辭
及ビ熟辭漢語ノ如キモ此辭中ニ收ムルヲ得ベシ即チ
一句ト成レル辭ハ「と」男子「のこ」豚「こ」を「の山」わ「津つ

「このかみ」海「あきつかみ」顯神「如ク熟辞ハ」御「み」御「とだ」衣「とくま」小田「如ク漢語ハ」東「うぐう」宮「内ハ」侍「ばうざ」病者「如シ

實體言

實體言ハ「ひと」人「とら」鳥「くさ」草「いま」石等ノ類真個ノ

物體アル者ハ皆此中ノ辞トス

虚體言

虚體言ハ真個ノ物體ナシト雖モ想像中ニ摸生シ形體アルガ如キ觀ヲ為ス者ハ皆此中ノ辞トス即チ「たま」靈「ゆめ」夢「こころ」心「うつつ」虚「如シ而シテ形容ヲ示ス者

時及ビ數ヲ呼ブ者或ハ業作ノ一個ノ事ニ成タル者モ亦此辞中ニ収ム即チ形容ヲ示ス者ハ「あか」赤「あを」青「まづか」静「ゆたか」豊「如ク時ヲ呼ブ者ハ」春「はる」春「あき」秋「あさ」朝「ゆふ」夕「如ク數ヲ呼ブ者ハ」ひと「ふた」二「み」三「よ」四「いつ」五「むゆ」六「ちぢ」千「よろづ」萬「如ク業作ノ一個ノ事ニ成タル者ハ」あや「たび」旅「如シ又人ノ笑フ聲ノ」むむ「猫ノ鳴ク聲ノ」ねうねう「雞ノ鳴ク聲ノ」ひよひよ「簾虫ノ鳴ク聲ノ」ちち「風ノ吹ク音ノ」そよそよ「木葉ノ落ル音ノ」けらけら「物相觸テ鳴ル音ノ」からから「等ハ木ト其物ノ聲ト

音トニシテ上ニ擧ル所ノ者トハ全ク其類ヲ同クセズ
ト雖モ常一兩辭ノトニ係リテ說話ニ用フルヲ以テ亦
此辭中ニ収ム

假體言

假體言ハ用言ノ轉變スル格ニ因テ假ニ實體言ト其用
ヲ同クスル者ヲ云フ即チ「ひかり」「こほり」「を志へ
「ならは志」「とほさ」「ちかさ」「さびまき」「うれまき」
如シ然レド實體言ヲ兼ル所ノ各種ノ接辭ニ於テ或
ハ之ヲ兼ザル者アリ下條ニ蓋假體ハ本ト用言ヨリ生
テ體言ノ用ヲ為スモ其性質全ク實體ト同ジキニ非

デレバ亦自ラ少差ノキヲ免レザル者ナリ

漢語ノ裝束學問修行孝養等モ作用第一變格ノ爲如せり

此引如ニ係リテ活用フル者ハ亦皆此假體中ノ辭トス

代名言

代名言ハ行文中物名ノ毎回反復シテ混亂スベキヲ防
グ爲ニ事物ノ名ニ代換ヌ可キ簡約ニシテ照應ニ便ナ
ラシムルニ用フル短辭ヲ云フ而シテ短辭ノ中人名ニ代
テ呼ブト他ノ事物ノ名ニ代テ其事物ヲ指稱スルニ用
フルトノ二類アリ人名ニ代テ呼ブ者ハ說話ヲ爲ス人
ト說話ニ對スル人ト說話ニ罹ル人トノ三人ニテ說話

ヲ為ス人ノ自ラ其名ニ代テ呼ブラ一人稱トシ説話ニ
對スル人名ニ代テ呼ブラ二人稱トシ説話ニ罹ル人名
ニ代テ呼ブラ三人稱トス

一人稱

我

わ

われ

われ

二人稱

汝

おれ

おれ

おれ

三人稱

彼

か

かれ

かれ

他ノ事物ノ名ニ代テ其事物ヲ指稱スルニ用フル者ハ
順序ニ因テ是ヲ三等ニ分ツ直ニ其事物ヲ指スヲ第一
等トシ次ノ事物ヲ指スヲ第二等トシ又次ノ事物ヲ指
スヲ第三等トス



第一等

此

これ

第二等

其

それ

第三等

彼

あれ

かれ

かれ

是順序ニ因テ論ズル井ハ又遠近親疎ノ反對ヲモ分チ
得ベシ即チ「川のふなた」此方「山のこのも」此面「かのもか」彼面
ノ如キこなた「此方」ハ近クシテ親シクこなた「此面」
ハ遠クシテ疎キガ如シ

合體言

二個ノ體言ヲ合併シテ一辭ニ呼ブラ合體言ト云フ此
言ハ多クハ體言ノ第二格ヲ見ス可キ接辭ヲ省テ呼ブ

連聲ノ便ニ因リテ第二語ノ上ヲ濁音ニ變ズ即チモ
 りのはこヲ「箱もむりばこ」もみぢのはヲ「硯もみぢば
 山」やまのかはヲ「川やまがは」たにの谷かはヲ「川たにが
 は」ノ如シ而メ實體ト虚體ト合スル者アリ虚體ト假
 體ト合スル者アリ實體ト虚體ト合スルハ「雨あま夜よ
 「月つき夜よ」あき秋ぎ霧り「湖たびびと」虚體ト假體ト合ス
 ルハ「朝あさ霧かり」ゆふ和なき「午ひる時ね」よ夜だちノ如
 シ又二辞ヲ合併スル上ノ辞尾ヲ變ズル者アリふねの
 ひとヲ「ふなびと」よ米ねのむまヲ「よなむま」ノ如
 ク又略スル者アリふみの文はこヲ「ふばこ」ふみの文つ

くろヲ「ふぶくろ」ノ如シ

體言ノ數

體言ニ單複二數ノ稱呼アリ單稱ハ單ナル事物ヲ呼
 フ即チ「父ちち」はは「母をまへ」君ちちひ「父ちち母はは」ノ如ク複數
 ハ尚ホ其類アルベキ事物ヲ呼ブ即チ「父ちち母はは」は
 は等だち「教をまへ等など」習ならひ等あど「如し而メ體言
 ノ尾ニ附テ複數ニ呼ブ可キ辞ハ「ちち」とも「なな
 「ら」等ナリ然レモ其辞ハ體言ノ種類ニ因テ附ク可
 キ者ト附ク可ラザル者トノ二個アリ今左ニ單複二數
 ヲ掲テ其例ヲ示ス

言實體單稱

お親

言實體複稱

お親たち

こ兒

こ兒ども

つ妻

つまなど

む妻

むらめら

言虛體單稱

は春

言虛體複稱

はるども

あ秋

あきなど

言假體單稱

うたひ

言假體複稱

うたひども

言代名單稱

われ

言代名複稱

われども

な

なれ

なむ

なむら

か

かれ

こ

これ

そ

それ

あ

あれ

右ノ如ク各種ノ體言ニ於テモ必ズ一物一事ノ觀ヲ為

ス。能ザル者ハ複數ノ辞ヲ附ク可ラズ殊ニ「たち」
ノ如キハ人類ノ名ヲ呼ブ辞尾ニ局ル者トス

體言ノ格

體言ヲ兼ル所ノ接辞ニ因テ其體言ノ他辞ニ関涉シ或
ハ互ニ係累スル變態ヲ現スヲ格ト名ク此格ヲ區別シ
テ第一格第二格第三格第四格獨立格、五個トス
第一格ハ他ニ係累スルヲ無ク文主ト成テ句頭ニ見
ル、格ヲ云フ此格ニハ能動受動自動被役動ノ活辞ヲ
記シ又狀態ヲ記ス即チ「父の談る」「母の呼ぶ」「馬の
騎らるる」「兵士の騎とらるる」「心の敏き」「心の赤き

「氷の融くる」「光の映ま」ノ如シ而シテ體言ヲ兼テ此
格ヲ見ス所ノ接辞ハはるゝのがぞやか」とニテ其接辞
ノ格ハ皆連用トス又此接辞ヲ省ク「アリ」「父談る」
母呼ぶ」ノ如シ
第二格ハ體言ノ互ニ相關係スルヲ示スニ用フ即チ
「花の盛り」「神の世」「里の人」「人の心」ノ如シ而シ
體言ヲ兼テ此格ヲ見ス所ノ接辞ハのガニテ其接辞ノ
格ハ共ニ連體トス又第二格ニ於テ接辞ヲ除ケバ合體
言ニ變ズル「アリ即チ」「はなざかり」「かみよ」「さと
び」と「ひとごとろ」ノ如シ

第三格ハ 作業ノ標的ヲ示スニ用フ故ニ又此格ニハ
 與奪ヲ受ル所ノ事物ヲ安置ス即チ「父は子に教ふ
 「女は母に習ふ」「鳥は花に囀る」「虫は叢に鳴く」
 如トハ鳥ト虫トノ教ヲ受ル者ニシテ花ト叢ト如シ而ノ體
 言ヲ兼テ此格ヲ見ス所ノ接辞ハ比ヘニテ其接辞ノ格
 ハ共ニ連用トス又稀ニ此接辞ヲ省クコトアリ
 第四格ハ 活辞ヲ以テ示ス所ノ作業ノ直ニ及達スル
 事物ヲ見スニ用フ即チ「書を讀む」「字を書く」「月を
 觀る」「花を折る」ノ如シ而ノ體言ヲ兼テ此格ヲ見ス
 接辞ノをハ其格連用ナリトス又此接辞ヲ省クコトアリ

「書讀む」「字書く」ノ如シ
 獨立格ハ 命令ヲ受ル所ノ事物ノ句頭ニ見ルハ格ヲ
 云フ即チ「童子書を讀め」「童子よ馬に騎れ」ノ如シ

用言

用言ハ事物百般ノ動作ト形容トヲ云フ者トス而ノ用言
 中其動作ヲ呼ブ者ヲ作用言トシ其形容ヲ呼ブ者ヲ形状
 言トス

作用言

作用言ハ事物百般ノ動作ヲ呼ブ所ノ活辞トス「雪
 降る」「月てる」「花さく」「風ふ吹く」ノふるてるさくふく

ノ如シ蓋活辞ハ動作ヲ為ス者ヲ除ケバ一モ之ガ作用
ノ考察ヲ為ス可ク能ザルヲ以テ獨リ人類ノミナラズ天
地間凡百ノ事物モ亦各其動作アル者ニ觀テ之ヲ論ゼ
ザル可ラズ故ニ事物ノ動作ヲ云フニ先ツ種類ヲ分テ
其屬スル所ノ諸法ヲ示ス

活辞ノ種類

活辞ハ動作ヲ呼ブ辞ニテ其中自ラ種類ノ分ル可キ者
五個アリ他ニ向テ動作ヲ與フル者ヲ能動ト稱ヒ他ヨ
リ受テ動作ヲ起ス者ヲ受動ト稱ヒ能動受動ノ中間ニ
在テ獨立ヲ為ス者ヲ自動ト稱ヒ他ヲ使役シテ動作ヲ

起サシムル者ヲ役動ト稱ヒ他ノ使役ヲ受テ動作ヲ起
ス者ヲ被役動ト稱フ而シテ此五個ノ活辞ハ皆其轉變ノ
法ニ成ル者ナリ

能動活辞

能動活辞ハ為ス所ノ動作ヲ他物ニ向テ與フル活辞ヲ
稱フ故ニ其上ニ必ズ第四格ヲ領ズ即チ「童子犬を」
「婦人兒を」
「抱く」ノ「抱く」ノ如キモ「撃ル」
所ノ者ト抱ク所ノ者トヲ知り得ルニ非ザレバ其動作
ハ未ダ那邊ニ在ルカヲ明瞭ニ為ス可ク能ハザルヲ以テ
受動活辞ニ對スル作用ヲ云フ辞類トス

受動活辞

受動活辞ハ動作ヲ為ス可キ物體ノ其動作ヲ他ヨリ受テ起ス活辞ヲ稱フ故ニ其上ニ必ず第三格ヲ領ズ即チ「犬童子にうたると」被撃「兒婦人にいだかる」被抱「いだかる」ノうたるといだからノ如キモ撃ツ所ノ人ト抱ク所ノ人トヲ知り得ルニ非ザレバ其動作ハ未ダ那邊ニ在ルカヲ明瞭ニ爲スヲ能ハザルヲ以テ能動活辞ニ對スル作用ヲ云フ辞類トス

自動活辞

自動活辞ハ為ス所ノ動作ノ獨リ其爲ス物體ニ止リ

毫モ他物ニ及達セザル活辞ヲ稱フ故ニ其上ニ必ず第

一格ヲ領ズ即チ「日ひがひかる」暁「玉たまがひかる」暁「日ひがあくる」暮

「あくる」暮如ク他物ニ関涉セズシテ其動作ハ明瞭ナルヲ以

テ能動受動ノ中間ニ在テ獨立スル辞類トス

役動活辞

役動活辞ハ他ヲ使役シテ動作ヲ起サシムル活辞ヲ稱

フ故ニ其上ニ必ず第四格ヲ領ズ即チ「童子に犬いぬをう

撃うたま」被抱「婦人に兒こをいだかる」被抱「いだかる」ノうたるといだからノ如ク他ヲ役シテ其動作ヲ起サシムル辞類トス

被役動活辭

被役動活辭ハ他ノ役ヲ受テ動作ヲ起ス活辭ヲ稱フ
 故ニ其上ニ受動ト同ク必ス第三格ヲ領ズ即チ「犬を
 親にうたせらる」被令擊「兒を夫にいだかせらる」被令抱ノうたせ
 らるいだかせらるノ如ク他ノ使役ヲ受テ其動作ヲ起
 ス活辭ヲ云フ而シテ「月に浮れてある」所行「酒に酔て
 ねぶらる」所睡ト云フあるかるねぶらるノ如キハ著シク
 使役ヲ與フル者ヲ見サズト雖モ細ニ其義ヲ解説スレ
 バ「我心ノ月ノ為ニ浮サレテ行ク」行「我心ノ酒ノ為ニ
 酔ヒラレテ睡ル」行ノ義ニシテ即チ我心ノ月ト酒トノ

使役ヲ受テ其動作ヲ起セル者ト觀ル可シ蓋被役動活
 辭ハ受動活辭中一種ノ辭類トス

命令法

命令法ハ他ヲ使役スル動作ヲ示スニ用フ其法ハ活辭
 ノ轉變ノ格ト其辭尾ニ命令辭ノ兼接スルトニ因テ成
 ル者トス活辭ノ轉變ニ成ル者ハ四段ニ於テハ終ノ轉
 ジハケトシ下二段ニ於テハ始ノ轉ジハケトシ第一變格ニ於テハ始ノ轉ジハケトシ第二變格ニ於テ
 ハ終ノ轉ジハケトシ第三變格ニ於テモ亦終ノ轉ジハケト
 ス

四段活辞

汝は 往ゆけ

汝は 衆のれ

下二段活辞

汝は 傳つたへ

汝は 勉つとめ

第一變格活辞

汝は 來こ

第二變格活辞

汝は 去いね

第三變格活辞

汝は 在あれ

汝は 居をれ

然レ_レ下二段ノ始ノ轉ジ_ハ 江0₀ 江0₀ 江0₀ 江0₀ニ於テ命令ヲ示スハ獨リ上古ノ文法上ニ在ル者ニシテ中古以來ニ於テハ命令辞ヲ附加ス可キ法ニ歸ス古今集及ヒ順集等ノ歌ニ命令ニ用ヒタル者為_レス可_レラ普通ノ活辞ノ尾ニ命令辞ノ接續スルニ因テ成ル者

四段活辞

汝は 着ききぬ

汝は 習ならひぬ

上段活辞

汝は 着きよ

汝は 射いよ

下二段活辞

汝は 蹴けよ

汝は 射へよ

上二段活辞

汝は 強まひよ

汝は 忍まのびよ

下二段活辞

汝は 諫いさめよ

汝は 集あつめよ

第一變格活辞

汝は 為せよ

汝は 來きね

第二變格活辞

汝は 往いなむ

第三變格活辞

汝は 在あらむ

汝は 居をらむ

希求法

希求法ハ自ラ其心ニ求ムル動作ヲ示スニ用フ其法ハ

活辭ノ尾ニ希求辭ヲ接續スルニ因テ成ル者トス接續
スル所ノ希求辭ニ單接スル者アリ復接スル者アリ單
接ハ希求辭ノ單ニ活辭ノ尾ヲ兼ル者トシ復接ハ活辭
ノ尾ニ過去辭ノ志テ去_レに志若クバ兩辭ノも等ヲ附テ
然リ後ニ希求辭ノ兼接スル者トス

○單接

○複接

四段活辭	よまばや	よみにまがな
一段活辭	みばや	みにまがな
二段活辭	へばや	へてまがな
三段活辭	まひばや	まひてまがな

疑問法

疑問法ハ心ニ疑訝スル動作ヲ示スニ用フ其法ハ疑辭
ヲ句頭ニ置キ或ハ句中辭尾等ニ接續スルニ因テ成ル
者トス即チ「なにの花ぞ」「花か開くらむ」「花は匂ふ
や」ノ類

第一變格活辭
はせばや
こばや
いなばや
をらばや

第二變格活辭
はせてまがな
きてまがな
いにてまがな
をりてまがな

第三變格活辭

句頭ノ疑辭 句中ノ疑辭 辭尾ノ疑辭

たれの家ぞ 人や住むらむ 風は吹くや
いづれの國ぞ 月か照るらむ 花は開くや
いかに在るぞ 花かも開ける 鳥は鳴くや

崇敬法

崇敬法ハ崇敬スル動作ヲ示スニ用フ其法ハ活辞ノ轉
變ト活辞ノ尾ニ崇敬辞ヲ接續スルトニ因テ成ル活辞
ノ轉變ニ因テ成ル者ハ四段ノ佐行ニ再轉スルト下二
段ノ良行ニ再轉スルトノ二個トス四段ノ佐行ニ再轉
スル者ハ「よまさ」^讀「よま去」^讀「よま来」^讀「よませ」^讀ノ轉
ジヲ云ヒ^{四段活辞ノ擧}下二段ノ良行ニ再轉スル者

ハ「いはれ」^言「いはる」^言「いはるる」^言「いはるれ」^言ノ轉ジ

ヲ云フ^{受動形ノ轉}ハ^{二同ジ其表}條^{下ニ擧}グ表ハ

活辞ノ尾ニ崇敬辞ノ接續スルニ因テ成ル者ニ三種アリ
他ノ為ス作業ヲ呼ブ辞尾ニ附テ敬意ヲ示スト已ノ
為ス作業ヲ呼ブ辞尾ニ附テ敬意ヲ示スト自他ノ為ス
作業ヲ呼ブ辞尾ニ互ニ附テ敬意ヲ示ストナリ
他ノ作業ニ附ル崇敬辞 己ノ作業ニ附ル崇敬辞

よみまを^讀 ききたまふ^聞
はげませたまふ^勵 おもひたまふ^思
つとめさせたまふ^勉 みたまふ^見

つとめさせたまふ

自他ノ作業ニ附ル崇敬辞

我告がつけまつる

人告がつけまつる

我告がつけたてまつる

人告がつけたてまつる

我告がつけまゐらまゐる

人告がつけまゐらまゐる

活辞ノ時

時ハ説話ニ罹ル事ノ説話ヲ為ス時間ノ前後或ハ同時
在ル者ヲ云フ而メ其時ヲ分テ現在。過去。大過去。未来。
想像過去。ノ五時トス

現在時

現在時ハ「書をよむ」字をかかむノよむかかむノ

如ク説話ニ罹ル事ノ説話ヲ為ス時ト同時時間ニ在

遅速ナキヲ示ス者トス

過去時

過去時ハ「書をよみき」字をかかせきノよみきか

かせきノ如ク説話ニ罹ル事ノ説話ヲ為ス時ニハ全ク

過ぎ去リ了レルヲ示ス者トス

大過去時

大過去時ハ「書をよみたりき」字をかかせたりき

ノよみたりきかかせたりきノ如ク説話ニ罹ル事ノ説

話ヲ為ス時ニハ已ニ疾ク過ギ去リ了テ其影響ヲモ見
聞シ得可ラザルヲ示ス者トス

未來時

未來時ハ「書をよまむ」字を將讀「字をかかせむ」ノよまむか
かせむノ如ク說話ニ催ル事ノ說話ヲ為ス時ニハ未ダ
來ラザルヲ示ス者トス

想像過去時

想像過去時ハ「書をよみつむ」字をかかせつむ
ノよみつむかかせつむノ如ク說話ニ催ル事ノ
說話ヲ為ス時ニハ已ニ過去ニ屬シタル可キヲ想像ス

ルヲ示ス者トス

活辞時刻法

活辞ノ時刻ハ其轉變ノ格ト活辞ノ尾ニ現在辞過去辞
將來辞ノ單接スルト複接スルトニ因テ成ル者トス
轉變ノ格ニ因テ成ル時ハ次章ニ擧ル所ノ將然。截斷。連
體。已然ノ四格ニシテ將然。連體。已然ノ三格ハ接辞ノ結
合ヲ得ルニ非ザレバ其全形ヲ成ス_四能ガル者ナリ
活辞ノ連體ハ截斷_四同シ轉ジナルニ因リ接
辞ノ兼接ヲ待ズシテ其全形ヲ示ス者トス

○將然

○截斷

未來時

よ讀 ぼ

現在時

は取 ぶ

いざなは

○連體

○已然

うらむ

現在時

もゆる
然
きゆる

過去時

いぬ
往
たぬ

活辞ノ尾ニ現在辞過去辞将来辞ノ單接スルト複接ス

ルトニ因テ成ル時ハ皆其全形ヲ成ス者トス

○單接

○複接

現在時

よむなり
讀
かくなる

大過去時

よみにたり
讀
かきたりき

過去時

よみき
讀

想像過去時

よみつらむ
讀

未來時

かきき
書
よまむ
讀
かかまふ

かきたりけむ
書

過去時ト想像過去時トハ單複ヲ變更スルモ亦各其時

ヲ示スアリ

○複接

○單接

過去時

よみぬなり
讀
かきたるなり

想像過去時

よみけむ
讀
かきけむ

活辞ノ轉變并表

活辞ノ轉變ヲ左ノ六種ニ分ツ

四段 上一段 下一段

上二段 下二段 變格

今飽字ヲ四段ニ轉ジ射字ヲ上一段ニ轉ジ蹴字ヲ下一段ニ轉ジ起字ヲ上二段ニ轉ジ受字ヲ下二段ニ轉ジ為字ヲ變格ニ轉ジ試テ其轉變ノ法ヲ示ス

四段 飽 あか あき あく あけト順ニかき

上一段 射 いくけノ四段ニ轉ズル者ヲ云フ

い い いれト一音ノ辞尾ニるれ

ヲ附ル者ヲ云フ

下一段 け ける けれト一音ノ辞尾ニるれ

ヲ附ル者ヲ云フ

上二段 起 おき おく おくる おくれト順ニ

きくノ二段ニ轉ジくノ尾ニるれヲ附

ル者ヲ云フ

下二段 受 うけ うく うくる うくれト逆ニ

けくノ二段ニ轉ジくノ尾ニるれヲ附

ル者ヲ云フ

變格 為 せ 去 せ せ せれトせ 去 去ノ

三段ニ轉ジをノ尾ニるれヲ附ル者ヲ

云フ然レハ變格ハ表ニ掲グル如ク轉

變一ナラズ或ハ四段ノ活辞ト同クシ
テ格ノ異ナル者アリ或ハ四段ニ轉ジ
テるれヲ添フル者アリ

活辞ノ轉變スル階級上ニ六個ノ格アリ將然連用假體
截斷連體已然ト云フ

將然

將然ハ動作ノ將ニ成ントスル格ヲ云フ「字をならは
む」書をよまむノならはよまノ如ク未ダ其事ノ始
ラザル前ヲ云フ而ノ其時ハ未來トス

連用

連用ハ動作ノ絶エズシテ連續スル格ヲ云フ「ならひ
そむ」よみはむむノ如クならひよみト云フ格ヨリ
直ニそむはむト云フ用言ニ連續スルヲ云フ而ノ其
時ハ接辞ノ結合ニ因テ過去ヲ見ス者トス

假體

假體ハ實體言ト其用ヲ同クスル格ヲ云フ「まつりに
往く」を去へを受くノまつりを去へノ如ク動作ノ
一個ノ形ヲ爲ス者トス

截斷

截斷ハ動作ノ連續セズシテ切ル格ヲ云フ「友とあ

つむ「馬をはき」ノ一つむはきノ如ク一個ノ動作、
 切ル、者トス而ノ其時ハ現在トス

連體

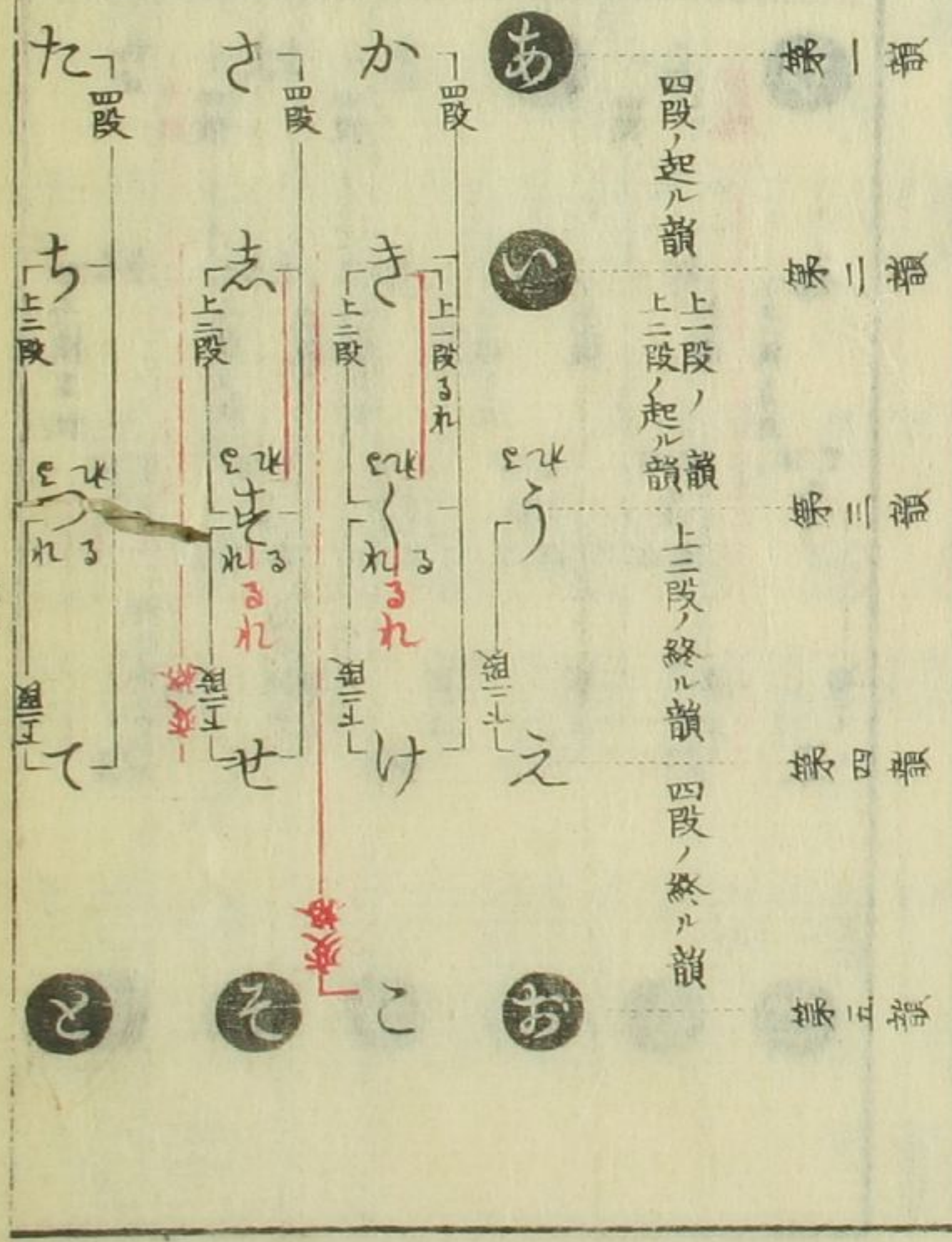
連體ハ體言ニ連續スル格ヲ云フ「山をこゆる」人を
 ほゆる」ノ如クこゆるほゆるト云フ格ヨリ直ニ人犬
 ト云フ體言ニ連續シテ「山をこゆる人」人をほゆる
 犬」ト云フガ如シ而ノ其時ハ現在トス

已然

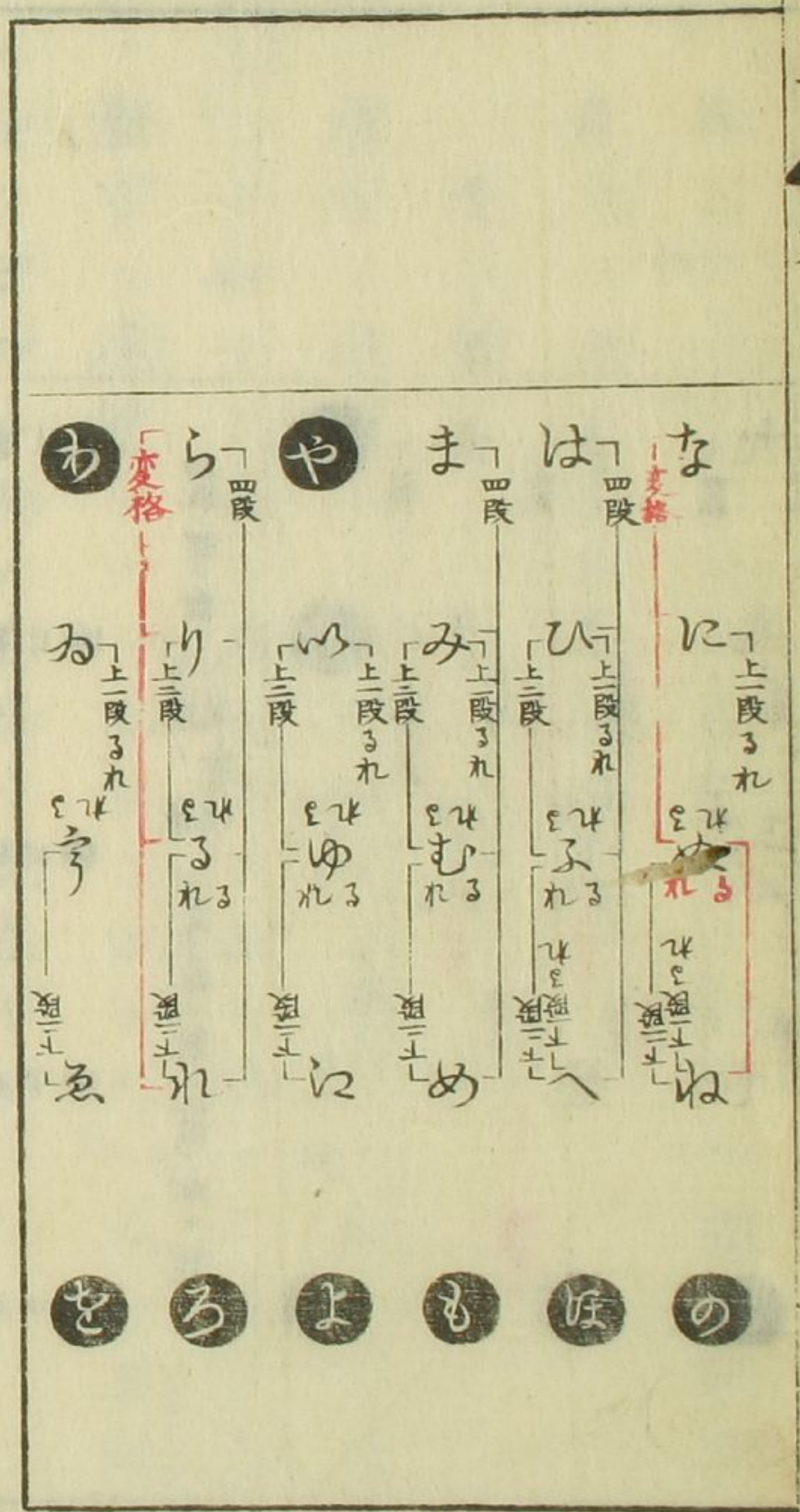
已然ハ動作ノ全ク終ル格ヲ云フ「君をいさむれば」
 齡おゆれば」ノいさむれおゆれノ如ク已ニ其事ノ終

レル後ヲ云フ而ノ其時ハ過去トス

活辞轉變表



右ニ舉ル活辞轉變ノ總表ヲ四段上一段等ノ各種ニ分別シ右傍ニ其格ヲ掲ゲ格ニ因テ兼ク可キ普通ナル接辞ヲ其格ノ欄内ニ収テ覽閱ニ便ス



上一段	四段
着 き む <small>将来辞</small>	釣 住 逢 打 押 飽 ら ま は た さ か ば <small>種接辞</small> め ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ <small>将来辞</small>
將然連用	り み ひ ち 去 き り <small>両辞</small> た か ま め つ け け け け け <small>将来辞</small>
假體	に <small>指示辞</small> とも <small>両辞</small> は を の に <small>指示辞</small>
截断連體	る む ふ つ 去 へ <small>現在辞</small>
已然	れ め へ て せ け より <small>種接辞</small> まら え だ に 両辞 まて 公量辞 せに 指示辞 かな 嘆辞 ども 両辞

下二段 將然 連用 假體 截斷 連體 已然

起	掘	落	戀	恨	老	舊
き	ち	み	ひ	み	ひ	り
將來辭	否不辭	ま志	種接辭	種接辭	種接辭	種接辭
現在辭	過去辭	現在辭	現在辭	現在辭	現在辭	現在辭
指示辭	指示辭	指示辭	指示辭	指示辭	指示辭	指示辭
く	ち	ふ	む	ゆ	る	
現在辭	現在辭	現在辭	現在辭	現在辭	現在辭	
現在辭	現在辭	現在辭	現在辭	現在辭	現在辭	
指示辭	指示辭	指示辭	指示辭	指示辭	指示辭	
くれ	れ	れ	れ	れ	れ	
兩辭	種接辭	種接辭	種接辭	種接辭	種接辭	

上二段 將然 連用 假體 截斷 連體 已然

下一段 將然 連用 假體 截斷 連體 已然

蹴	陪	綜
け	ね	へ
否不辭	種接辭	種接辭
現在辭	現在辭	現在辭
指示辭	指示辭	指示辭
ける	ねる	へる
現在辭	現在辭	現在辭
現在辭	現在辭	現在辭
指示辭	指示辭	指示辭
けれ	ねれ	へれ
兩辭	種接辭	種接辭

似	干	見	射	般
に	ひ	み	ひ	る
否不辭	種接辭	種接辭	種接辭	種接辭
過去辭	過去辭	過去辭	過去辭	過去辭
指示辭	指示辭	指示辭	指示辭	指示辭
にる	みる	ひる	ひる	る
現在辭	現在辭	現在辭	現在辭	現在辭
現在辭	現在辭	現在辭	現在辭	現在辭
指示辭	指示辭	指示辭	指示辭	指示辭
にれ	みれ	ひれ	ひれ	れ
種接辭	種接辭	種接辭	種接辭	種接辭

得受瘦捨兼辨譽消枯飢

⑤ ④ ③ ② ① ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

得 受 瘦 捨 兼 辨 譽 消 枯 飢
む び び び び び び び び び

現在辞 過去辞 現在辞 過去辞 現在辞 過去辞 現在辞 過去辞 現在辞 過去辞

指示辞 両辞

⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

断 断 断 断 断 断 断 断 断 断

連 連 連 連 連 連 連 連 連 連

體 體 體 體 體 體 體 體 體 體

已 已 已 已 已 已 已 已 已 已

第一變格

爲 來

⑪ ⑫

爲 來 爲 來 爲 來 爲 來

將 然 連 用 假 體 截 斷 連 體 已 然

⑬ ⑭

爲 來 爲 來 爲 來 爲 來

將 然 連 用 假 體 截 斷 連 體 已 然

⑮ ⑯

爲 來 爲 來 爲 來 爲 來

將 然 連 用 假 體 截 斷 連 體 已 然

⑰ ⑱

爲 來 爲 來 爲 來 爲 來

第二變格

往

往 往 往 往

將 然 連 用 假 體 截 斷 連 體 已 然

往 往 往 往

將 然 連 用 假 體 截 斷 連 體 已 然

往 往 往 往

將 然 連 用 假 體 截 斷 連 體 已 然

往 往 往 往

死	な
は	ねぬまて
に	なまか
ぬ	まま
ぬる	まま
ぬれ	まま

第三變格

居有	ら
は	ねぬまて
り	なまか
とも	なまか
かま	まま
る	まま
れ	まま

四段以下下二段ニ至ル迄ノ轉變上ニ於テ普通ニ見ル
 、活辞ノ形ハ能動。自動。ノ二種ニシテ受動。役動。被役動。
 ノ三種ハ總テ各段ノ活辞ノ再ビ下二段ニ移レル轉ジ
 ニ成ル者トス

能動

四段	あがむ
い	さなふ
い	射る
に	煮る
け	蹴る

自動

四段	あまる
去	ぼむ
に	似る
ひ	干る
ね	寝る

上二段

下二段

受動

去強
う恨ら

と去
を教

さづ
被授

ふ
む

上二段

下二段

役動

お光
ふ奢る

ひ秀
をづ

も前
ゆ

四段活辞ノ下二
段ニ移レル形

上二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

下二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

四段活辞ノ下二
段ニ移レル形

上二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

下二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

あざむかる
被欺

いざなはる
被誘

に煮る
被煮

けら蹴る
被蹴

おはせ
被令追

もたせ
被令持

きさせ
被令着

へさせ
被令縁

上二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

下二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

志ひらる
被強

うらみらる
被恨

あづけらる
被預

さづけらる
被授

上二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

下二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

はぢさせ
被令耻

くらさせ
被令朽

うゑさせ
被令植

つげさせ
被令告

下二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

下二段活辞ノ下二
段ニ移レル形

おはせらる
被令追

もたせらる
被令持

きさせらる
被令着

みさせらる
被令見

然レモ各段ノ活辞ニ於テ各種ノ形ヲ固有ニ具ヘタル

ハ下二段ニ移サバル者多シ例へバ能動形ナル「を志
 教」ニ對スル受動形ノ「を志」ト云フ辞ハ用
 ヒズシテ固有ノ受動形ナル「習」ヲ用ヒ或ハ能
 動形ナル「あたふ」ニ對スル受動形ノ「被
 與」ト云フ辞ハ用ヒズシテ固有ノ受動形ナル「
 受」ヲ用フル類ノ如シ然レバ各段ニ在テ能動形ニ混同シ易
 キ者アリ今一例ヲ舉ゲバ自動形ニシテ受動形ニ非ザカ
 シレバ動モスレバト云ク「下」カ「お」シ「ト」對稱シテ動直形ニ對
 為動形ガノ觀シテ

一 辭ノ各段ニ轉ジテ能動以下五種ノ活辭ノ形ヲ成ス

者モ亦多シ今一二ヲ舉テ其例ヲ示ス

能動

受動

こらむ 活四段
 懲る 活四段
 ふる 活四段
 のこむ 活四段

こらさる 活二段
 懲る 活二段
 ふる 活二段
 のこさる 活二段

こ懲る 活二段
 ふ蓄る 活二段
 のこ蓄る 活二段

被役動

こらさせらる下二段活用
令懲させらる下二段活用
ふ奮させらる下二段活用
のこさせらる下二段活用

こらさせらる下二段活用
被令させらる下二段活用
ふ奮させらる下二段活用
被令させらる下二段活用

四段活辞

四段活辞ノ終ノ轉シハ接辞ノ兼接ヲ待ズシテ
命令ヲ示ス者トス乃チ「書よめ」字をかけ「ノ如
シ然レバ其第一ノ轉ジハ第二ノ轉ジハ他
ノ活辞ト同ク命令辞ノ接續ヲ得ザレバ其意ヲ示ス
能ハズ

四段再轉

四段活辞ノ再ビ其佐行ハ良行ハ二行ニ轉ズル
者アリ之ヲ四段再轉ト稱ス其佐行ニ轉ズル者ハ將然
格ハヨリ移ルハ將然格ヨリ佐行ニ移ル者ハ已然格
ヨリ移ルハ將然格ヨリ佐行ニ移ル者ハ「あかせ」
「あかせ」ハ「うたさ」ハ「うたさ」ハ「うたさ」ハ「うたさ」
「あかせ」ハ「うたさ」ハ「うたさ」ハ「うたさ」
「あかせ」ハ「うたさ」ハ「うたさ」ハ「うたさ」
「あかせ」ハ「うたさ」ハ「うたさ」ハ「うたさ」

四段 佐行再轉

釣任 達打 鉤 鉤

さ
志
せ
せ

已然格ヨリ良行ニ移ル者ハ「あかせら」
「あかせり」

あかせる。あかせれ。あへら。あへり。あへる。あへれ。
ト轉ジテ其動作ノ然カ在ルヲ云フ活用トス

四段 良行再轉

釣住邊打押飽
ら
り
る
れ

下二段活辞

下二段活辞ノ始ノ轉ジハ接辞ノ兼接ヲ待
ズレテ或ハ命令ヲ示ス者トス乃チ「火はも^燃」
「氷は^融」^融如シ然レモ此用法ハ獨リ上古ノ文法上ニ在
ル者ニシテ中古以來ニ於テハ他ノ活辞ト同ジク命令

辞ヲ附加ス可キ法ニ歸ス

下二段再轉

四段以下各段ノ活辞ヨリ下二段ノ佐行^三良行^三
云フ下二段ニ再轉スル各段ノ活辞ハ必ズ將然格ヨリ
移ル而シテ下二段ニ移テ再轉スル形ハ受動。被役動。
及ビ動作ヲ崇敬スル轉ジノ四種ニシテ佐行ニ轉ズル
者ヲ役動トシ良行ニ轉ズル者ヲ受動被役動及ビ動作
ヲ崇敬スル轉ジトス四段活辞ノ佐行ニ移テ役動ノ形
ヲ成スハ將然格ヨリ直ニ「あかせ。」
「あかせ。」
「あかせ。」
「あかせ。」

「あかたれ」ト轉ジ其他ハ皆其將然格ノ辞尾ニ「さ」ヲ附テ「きさせ」令着「きさせ」令着「きさせ」令着「きさせ」令着ト轉ズル者トス

段二下 佐行再轉

捨	恨	蹴	着	飽
せ				
せ				
せる				
せれ				

四段活辞ノ良行ニ移テ受動ノ形及ビ動作ヲ崇敬スル轉ジテ成ス者ハ將然格ヨリ直ニ「あかれ」被飽ト轉ジ其他ハ皆將然格ノ辞尾「あかる」被飽「あかるれ」被飽ト轉ジ其他ハ皆將然格ノ辞尾「ら」被飽ヲ附テ「きられ」被着「きらる」被着「きらる」被着ト轉ズル者トス

變格活辞

變格活辞ノ第一變格ノ始ノ轉ジヨリ「こ」來「せ」為ト過去辞ノ志兼用格ヲニ續キ第三變格ノ第二ノ轉ジヨ

段二下 良行再轉

捨	恨	蹴	着	飽
れ				
る				
るる				
るれ				

「ト轉ズル者トス而ノ其被役動ノ形ヲ成ス者ハ佐行再轉ノ將然格ノ辞尾ニ「ら」ヲ附テ更ニ良行ニ移リ「あかれ」被飽「あかる」被飽「あかるれ」被飽ト轉ズル者トス

リ「ありや」をりや」ト疑辞ノや兼断格ニ續キ又「
 ありと」をりと」ト兩辞ノと兼断格ニ續キ又「あり
 有」をりか志」ト一種接辞ノか志兼断格ニ續ク然
 レ其連續スル所ノ接辞ノ格ヲ推テ直ニ第一變格ノ
 始ノ轉ジハ連用ノ格ヲ兼ネ第三變格ノ第二ノ轉ジハ
 截断ノ格ヲ兼タリトハ定ム可ラズ只其格第一ノ轉ジ
 轉格ノ變ト觀ルベキ者ナリ變格ノ格ヲ兼中ニ連用及ビ截
 作レ示者ハ只其連續
 第一變格ノせ志をるをれハ假體ノ尾ニ附テ「王
 りを」おそびを」たたかひを」たはぶれを」ト云
 遊

又漢語ノ尾ニ附テ「かんぞ」「ろんぞ」「かうやうぞ」
 べんきやうぞ」ト云フ類已ニ其假體ト成リタル辞尾
 勉強ニ附テ再ビ之ヲ擣カスルニ用フル者トス

形状言

形状言ハ事物百般ノ形容ヲ示ス辞トス即チ「月はき
 よ志」「花はあか志」紅「ながく居る」長「ひさまゝ住む」
 きよ志あか志ながくひさまゝくノ如シ蓋形状言ハ本ト
 體言ノ尾ニ單複ノ活用辞ヲ附テ之ニ活用ヲ命ズル者
 ナリ故ニ其活用辞ヲ除クハきよあかひろひさノ如
 ク皆其原語タル形容ヲ示ス所ノ虚體言ニ歸ス體言及
 作用

言ノ如キモ其始ハ一音或ハ二音ニシテ後ニ四音五音ト重ナレル者ナリ然ルニ形状言中ニ於テモ原語ノ疑ルニ後ノ如キ者アルハ已ニ多ク重ナルレ言ヲ呼ビ馴タ考ルニ論ゼラレ

形状言ノ轉變并表

形状言ノ轉變ハ形容ヲ呼ブ體言ノ移リ來テ轉ズル者ヲ云フ其轉變ヲ單辭複辭變格ノ三種ニ分ツ今憎字ヲ單辭ニ轉ジ戀字ヲ複辭ニ轉ジ速字微字ヲ變格ニ轉ジ試テ其轉變ノ法ヲ示マ

單辭

憎 にくさ ぼくく にくま にくき にくげ たくまき げニ轉ズル者ヲ云フ

複辭

戀 こひまき こひまき こひまき こひまき

變格

微速

まむやけく ちまむやけま ちまむやけま ちまむやけま ちまむやけま ちまむやけま ちまむやけま ちまむやけま ちまむやけま ちまむやけま

單辭ニ轉ズル原語ハ之ヲ重ナル片ハ複辭ノ轉ジニ變ズル者ナリ即チ憎字ハ單辭ノ轉ジナレバ之ヲ重マレバ複辭ニ變ジテ にくにくまき にくにくまき にくにくまき

くにくま」「にくにくまき」「にくにくまげ」ト轉ズル
如シ
形状言モ亦作用言ト同ク其轉變スル階級上ニ左ノ四
個ノ格ヲ有ツ

連用 假體
截斷 連體

今此四個ノ格ヲ表ノ右傍ニ掲グ格ニ因テ兼ク可キ普
通ナル接辞ヲ其格ノ欄内ニ収ムル一作用言ニ同ジ

單辞	假體連用	假體假體	假體截斷	連體假體
憎	假體連用	假體假體	假體截斷	連體假體
かま	現在辞	指示辞	指示辞	假辞
て	現在辞	指示辞	指示辞	假辞
の	指示辞	指示辞	指示辞	假辞
に	指示辞	指示辞	指示辞	假辞
や	假辞	假辞	假辞	假辞
かま	假辞	假辞	假辞	假辞
に	指示辞	指示辞	指示辞	假辞

安	假體連用	假體假體	假體截斷	連體假體
寒	假體連用	假體假體	假體截斷	連體假體
さ	指示辞	指示辞	指示辞	假辞
く	兩辞	指示辞	指示辞	假辞
は	兩辞	指示辞	指示辞	假辞
の	兩辞	指示辞	指示辞	假辞
と	兩辞	假辞	假辞	假辞
き	指示辞	指示辞	指示辞	假辞
け	指示辞	指示辞	指示辞	假辞

恣	假體連用	假體假體	假體截斷	連體假體
樂	假體連用	假體假體	假體截斷	連體假體
恠	假體連用	假體假體	假體截斷	連體假體
ま	現在辞	指示辞	指示辞	假辞
さ	兩辞	指示辞	指示辞	假辞
は	兩辞	指示辞	指示辞	假辞
の	兩辞	指示辞	指示辞	假辞
と	兩辞	假辞	假辞	假辞
き	指示辞	指示辞	指示辞	假辞
げ	指示辞	指示辞	指示辞	假辞

單變格	連用	截斷	連體
速	連用	截斷	連體
く	現在辞	指示辞	假辞
ま	現在辞	指示辞	假辞
き	假辞	假辞	假辞
は	假辞	假辞	假辞

辭變格

微	連
<small>現在辭</small> <small>て</small> <small>兩辭</small> <small>だ</small> <small>さ</small> <small>も</small>	用
<small>現在辭</small> <small>ま</small> <small>ま</small> <small>を</small> <small>に</small> <small>を</small> <small>を</small> <small>こ</small>	假體
<small>現在辭</small> <small>ま</small> <small>ま</small> <small>を</small> <small>に</small> <small>を</small> <small>を</small> <small>こ</small>	截斷
<small>現在辭</small> <small>ま</small> <small>ま</small> <small>を</small> <small>に</small> <small>を</small> <small>を</small> <small>こ</small>	連體

形状言ノ變化

形状言ノ變化ハ轉ジノ作用四段ニ移ルヲ云フ而ノ其
 移ル轉ジニ二種アリ其第一ハ麻行ノ四段びふニ轉ジ
 其第二ハ良行ノ四段ぶらニ轉ズ之ヲ形状ノ四段活用

ト云ノ

麻行ノ四段ニ轉ズル者

麻行ノ四段ニ轉ズル所ノ形状言ハ單辭ハ其原語ヨリ
 直ニ移リ複辭ハ其轉ジノ志第三ノヨリ移ル者トス乃

子左ノ如シ

單辭

にくま。

にくみ。

にくむ。

にくめ。

複辭

たのま。

たのま。

たのま。

たのま。

麻行ノ四段ニ轉ズルミニ混ヒ易キ者アリ即チ「雪の
 ふりみふらぎみ」風のふきみふかぎみ」等ノみ是ナ
 リ此みハ一種ノみニシテ「夜をさむみ」夜をうきみ。

等ノミト異ナリ「さむみ」「うきみ」ノミハ形状單
辭ニ轉ズベキ原語ノ麻行ニ轉ゼシ者ナレバ其ミヲ除
クハ原語ニ歸リ又單辭ニモ活用スベシ故ニ形容ヲ
云フ辭ニ属スルミハ悉ク此麻行ノミナルハ昭ニ知ラ
ル可シト雖モ初學ニ在テハ動モスレバ一種ノミニ混
フルヲアリ故ニ今麻行ノミト併セテ左ニ例ヲ掲グ

○麻行ノミ

○一種ノミ

單辭	宮をあらみ。	月のてりみてらむみ。
單辭	夜をうきみ。	雨のふりみふらむみ。
單辭	風をはやみ。	空のはれみくもりみ。

單辭	水をおきみ。	人のきみ及まむみ。
單辭	底をふかみ。	人のなきみわらひみ。
複辭	人をこひまみ。	舟のうきみまづみみ。
複辭	人をまつかまみ。	物のみえみみ江むみ。
複辭	名をむつままみ。	兒をおひみいだきみ。
複辭	世をくるまみ。	弓をひきみゆるべみ。
複辭	秋をかまみ。	道をゆきみゆかむみ。

一種ノミト稱スルミハ右ニ舉タル如ク皆事物ノ動作
ヲ呼ブ所ノ辭尾ニ属シテ其動作ヲ試ムル義ノ辭トス
試ニテ試字ノ義ニ用フルハ讀ニ得ベキヤ讀テ故ニ「月

其第二ハ「やをくある」こひまかる
ノ約リタルカノ通音ニ因リ更ニけと變ズル者ヲ云ノ
第一音ヲ第四音ニ移スハ萬葉集ニ「雪かも零ら
トアル」ふら「後ニハ総テふれ」ト云ヘル如シ

第二變形

こひまける
こひまけり
こひまけれ
こひまけり

第二變形中ノ第一音ノら。ヤをけら
直ニけヨリ將然ヲ兼ル所ノ接辞ニ續クル「例ハ萬葉

集ニ「國の遠かば」まさか志善
加ハ善カハ遠カバ「まさか志善
而ノ此第二變形ハ形状言中ニ於テモ頗ル至難ノ條歟
ナルヲ以テ古書ニ徴シテ細ク之ヲ説ガレバ或ハ理會
シ易カザル者アラシク故テ他歟ノ例勿レ背テ左ノ例
書名ヲ掲グル「アリ覽者請フ佐ム」例勿レ背テ左ノ例
如シ

單辭

萬葉集 やをけむ。
十卷集 やをけむ。
八卷集 はやけむ。
萬葉集 はやけむ。
古今集 志げけむ。
十萬葉集 志げけむ。
十萬葉集 志げけむ。

複辭

萬葉集 こひまけむ。
三卷集 こひまけむ。
萬葉集 こひまけむ。
新勅撰集 とまけむ。
十萬葉集 志げま。
十萬葉集 志げま。
十萬葉集 こひまけむ。
右ニ舉ル所ノ第二變形ノけヲ兼タルむめま。

ば。ハ皆將然ヲ兼クベキ格ノ接辞ナレバ「ヤ」
けむ「コヒ」去けむ「ト」云ヒテ「カラ」む「ヒカ」
明スルニ足ル可シ
ハ「カ」ノ意ニ聞キ得ルヲ以テ其「省」タルヲ證

第二音ノリ。ヤセケリノリ。コヒ。第三音ノる。ヤセケるノる。コヒ。ハ

通音ナレバ古來其けりけるヲ用ヒズシテ直ニ第一變

形ノかりかるヲ用フル例トス乃チ左ノ如シ

第四音ノれ。ヤセケレ。コヒ。ハ第一變形ノかれヲ用ヒズ
ヤセカリ。ヤセケレ。コヒ。ハ第一變形ノかれヲ用ヒズ
ヤセカリ。ヤセケレ。コヒ。ハ第一變形ノかれヲ用ヒズ

記紀萬葉等ノ古言ノ歌文ハシテ普通ニけれヲ用フ
ルノ左ノ例ノ如シ

ヤセケレ。ヤセケレ。コヒ。ハ第一變形ノかれヲ用ヒズ

形状言ク去クノ變化

形状言ノく去クニ二種ノ變化アリ其第一ヲ接辞ノ兼
接ニ生ズル變化トシ其第二ヲ伸音ニ生ズル變化トス

第一ノく去クノ變化

單辞複辞ノく去クヨリ一種接辞ノば。將然格ヲ兩辞ノト
ハ「カ」ノ意ニ聞キ得ルヲ以テ其「省」タルヲ證

ハ延タルけくニ紛へ易キ者アリ「たひらけく」
 延らけくノけく是ナリ今延タル者ト異ナル者！
 併セテ左ニ其例ヲ示ス

○延タル者

やまけく
 さむけく
 ねたけく
 うけく
 とまけく
 ひまけく

○異ナル者

やまらけく
 たひらけく
 あきらけく
 のどけく
 ゆたけく
 かをけく

うれまけく
 かままけく
 此伸音ノけくノ中ニくヲ除テけヨリさくまきげニ轉
 スル者アリ「さむけさ」さむけく「さむけさ」さむ
 けき「さむけげ」ノ如シ
 下段ニ擧タルけくハ伸音ニ非ズシテ辞尾ノ音ノ轉ゼ
 シ者トス例ヘバ「たひらか」やまらかト云フベキ
 カヲ第四音ノけニ轉ジ第一音ノ條ニ第四音ケルガ如シ第
 一
 而ノ「たひらけさ」たひらけく「たひらけさ」たひ
 らけき「たひらけげ」やまらけさ「やまらけさ」や
 五十七

まらけ。ま。やまらけき。やまらけげ。ト單辭ノさく。
まきげ。ニ活用セシ第二ノ轉ジノけくナリ

單辭ノげ

單辭ノ第五ノ轉ジノげ。ハ作用言ノ連用ヲ兼
ク「物おもひげ」心ありげ。ノ如シ而ノ此げノ或ハ
過去辭ノて。兼用格ヲたる兼用格等ニ係ル。アリ源氏葵
壺董卷ニ「はわらははげた」榮花類故ニ連用格ヲモ兼タル
ニ似タリト雖モ未ダ一般ノ例トハ看做ス可ラズ

形状變格

形状ノ變格ハ單復共ニ其轉ズル數ノ足ラザル者ト轉

ズル所ノ格ニ小異ハ接續スベキ格ノ接辭ニテ或アル者
トヲ云フ而ノ表ニ掲グル速字微字ノミ此轉ジト為ス
ニ非ズ接辭ニ収タル如字可字ノ類都テ志まく等ニ活
用シテ單復二辭ノ正數ニ足ラザル者蓋字「けだま」
スルト類活用ハ皆此變格中ノ辭トス

